

# 令和7年度農作物病虫害発生予察技術資料第4号

令和7年(2025年)8月19日  
山口県病虫害防除所

## 水稻のトビイロウンカの防除対策について

8月7日に萩市の予察灯においてトビイロウンカが初確認(平年初確認6月18日)され、8月10日には多飛来があったと考えられます。

この時期のまとまった飛来は異例であり、10月以降に収穫期を迎える品種については、防除適期予測図に基づいてほ場での発生を確認し、必要な対策を実施するようお願いします。

### 記

#### 1 飛来状況

萩市の予察灯において、8月7日に1頭、10日に123頭、11日に1頭のトビイロウンカの誘殺を確認した。また、8月10日には萩市、下関市、防府市、岩国市の予察灯で本年最多のセジロウンカの誘殺も確認した。

#### 2 防除適期予測

- (1) 対象地域 県下全域
- (2) 対象品種 10月以降に収穫期を迎える品種
- (3) 今後の発生予測 下図のとおり

主要な飛来は8月10日頃と推定され、防除適期は第1世代幼虫期である8月29日～9月2日頃、第2世代幼虫期である10月6日～13日頃と予測される。

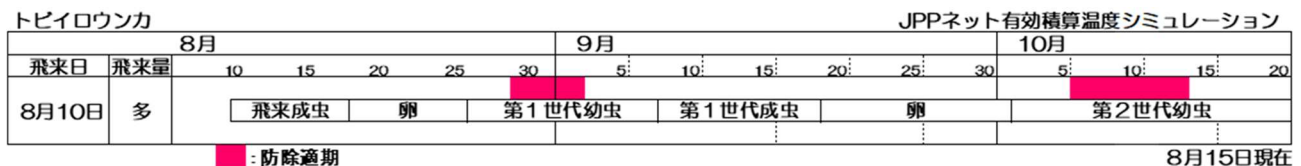


図 トビイロウンカの防除適期予測図

※10月上旬以降に第2世代幼虫が急増し、坪枯れを引き起こす可能性がある。

#### 3 防除対策

- (1) 10月以降に収穫期を迎える品種は、株あたり成幼虫5頭以上の発生を認めたら速やかに薬剤散布を行う。
- (2) 8月下旬から9月上旬が防除適期であるので、先に発出した斑点米カメムシ類の注意報に基づき実施する出穂期前後の防除により、トビイロウンカとの同時防除を行う。

#### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は株元付近に生息して世代が進む毎に急激に増加し、坪枯れを引き起こすため、株元へ薬剤が十分にかかるよう薬剤散布を行う。
- (2) 本虫は同一地域内、同一ほ場内でも偏って発生することが多いので、ほ場をよく見回り、最も防除効果の高い若齢幼虫最盛期に防除を実施する。
- (3) 薬剤散布の際には、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止するとともにミツバチ等に危害を及ぼすことがないように十分注意する。また、農薬散布実施日時について、周辺農家や住宅等へ事前の周知に努める。



写真1 短翅型成虫



写真2 長翅型成虫



写真3 幼虫



写真4 株元に多発した幼虫



写真5 坪枯れ